



4 運用・保守 編

本装置の運用および保守について説明します。

日常の保守(→226ページ)	本装置を日常使う上で確認しなければならない点やファイルの管理、クリーニングの方法について説明します。
システム診断(→229ページ)	本装置専用の診断ユーティリティの使い方について説明します。
障害時の対処(→233ページ)	故障かな?と思ったときに参照してください。トラブルの原因の確認方法やその対処方法について説明しています。
オフライン保守ユーティリティ(→301ページ)	本装置専用の保守ユーティリティの使い方について説明します。
システムマネジメント(→303ページ)	CPUブレードに搭載されたシステム管理機能の設定について説明します。
移動と保管(→304ページ)	本装置を移動・保管する際の手順や注意事項について説明します。
ユーザーサポート(→305ページ)	本装置に関するさまざまなサービスについて説明します。サービスはNECおよびNECが認定した保守サービス会社から提供されるものです。ぜひご利用ください。

日常の保守

ブレードサーバを常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。

管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「統合ビューア」、「データビューア」、「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

ESMPROでチェックする画面



統合ビューア



データビューア

重要度	名前	位置	デバイス	発生時刻	製品名
警告	システム/1 ONLINE	Mylex System Drive	B9F2	1101190.02	ESMPRO/SM
物理デバイス ONLINE	Mylex Physical Device	B9F2	1101190.02	1999/05/06 11:01	ESMPRO/SM
システム/1 CRITICAL	Mylex System Drive	B9F2	1101190.02	1999/05/06 11:20	ESMPRO/SM
物理デバイス DEAD	Mylex Physical Device	B9F2	1101190.02	1999/05/06 11:20	ESMPRO/SM

アラートビューア

ステータスランプの確認

ブレードサーバの電源をONにした後、およびシャットダウンをしてブレードサーバの電源をOFFにする前に、CPUブレード前面にあるランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については「ハードウェア編」の「各部の名称と機能」をご覧ください。万一、CPUブレードや各デバイスの異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ



定期的にブレードサーバのハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。ブレードサーバに最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更したりした後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください(38ページ参照)。

ディスクアレイを構築しているシステムでは、ディスクアレイのコンフィグレーション情報のバックアップをとっておいてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報のバックアップをとっておくことをお勧めします。コンフィグレーション情報はオプションのディスクアレイコントローラに添付の説明書を参照してバックアップをとってください。

クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

 警告	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡するまたは重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 自分で分解・修理・改造はしない● プラグを差し込んだまま取り扱わない

ブレード収納ユニットの外観の汚れは、柔らかい布でふき取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。



- シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。
- コンセント、ケーブル、ブレード収納ユニットに搭載しているデバイス、ブレード収納ユニット内部は絶対に水などでぬらさないでください。

1. ブレード収納ユニットの電源がOFF (POWERランプ消灯) になっていることを確認する。
2. ブレード収納ユニットの電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. ブレード収納ユニットの汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。
8. 乾いた布で装置背面にあるファンの排気口に付着しているほこりをふき取る。

システム診断

「システム診断」はCPUブレードに対して各種診断を行います。
「EXPRESSBUILDER」の「ツール」メニューから「システム診断」を選択して診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- CPUブレードに取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック



システム診断を行う時は、必ず診断対象となるCPUブレードをネットワークから切り離してください。ネットワークに接続されたままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。



ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、ブレード収納ユニットのコンソール(USB接続キーボード)を使用する方法と、シリアルポート経由で管理PCのコンソールを使用する方法(コンソールレス)があります。

それぞれの起動方法は次のとおりです。



「ソフトウェア編」の「EXPRESSBUILDER」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。

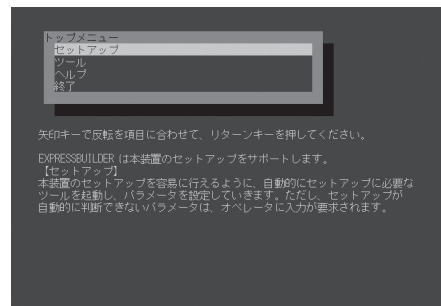
1. シャットダウン処理を行った後、CPUブレードの電源をOFFにする。
2. 試験対象となるCPUブレードが接続されているSwitchキットの電源をOFFにするか、SwitchキットのLANポートを使用不可にして、試験対象となるCPUブレードをネットワークから切り離す。
3. CPUブレードの電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMを使ってCPUブレードを起動する。

ブレード収納ユニットのコンソールを使用して起動する場合と、コンソールレスで起動する場合で手順が異なります。「ソフトウェア編」の「EXPRESSBUILDER」を参照して正しく起動してください。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMから起動すると画面にメニューが表示されます。ブレード収納ユニットのコンソールを使用して起動した場合は、ブレード収納ユニットに接続しているディスプレイ装置に「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。コンソールレスで起動した場合は、管理PCのディスプレイに「トップメニュー」が表示されます。



EXPRESSBUILDER トップメニュー

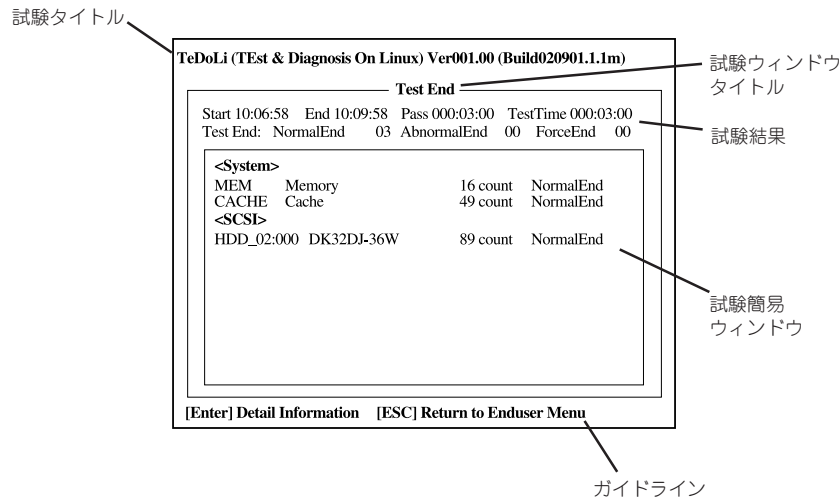


トップメニュー

5. [ツール]を選択する。

6. 「ツール」メニューの[システム診断]を選択する。

システム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。

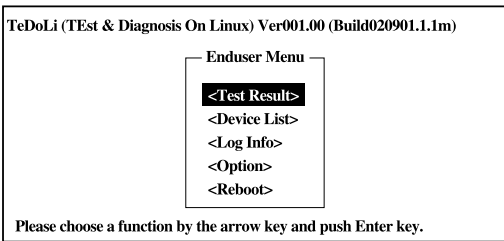


試験タイトル: 診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。
試験ウィンドウタイトル: 診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。
試験結果: 診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。
ガイドライン: ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。
試験簡易ウィンドウ: 診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。
エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

以下のエンドユーザーメニューを表示します。



<Test Result>: 前述の診断終了時の画面を表示します。
<Device List>: 接続されているデバイス一覧情報を表示します。
<Log Info>: 試験ログを表示します。試験ログをフロッピーディスクへ保存することができます。フロッピーディスクへ記録する場合は、フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、<Save(F)>を選択してください。
<Option>: オプション機能が利用できます。
<Reboot>: システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。
CPUブレードが再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。
9. EXPRESSBUILDERを終了し、CD-ROMまたはDVD-ROMドライブからCD-ROMを取り出す。
10. CPUブレードの電源をOFFにする。
11. 手順2で切り離れたSwitchキットとCPUブレード間のLANを接続し直す。

以上でシステム診断は終了です。

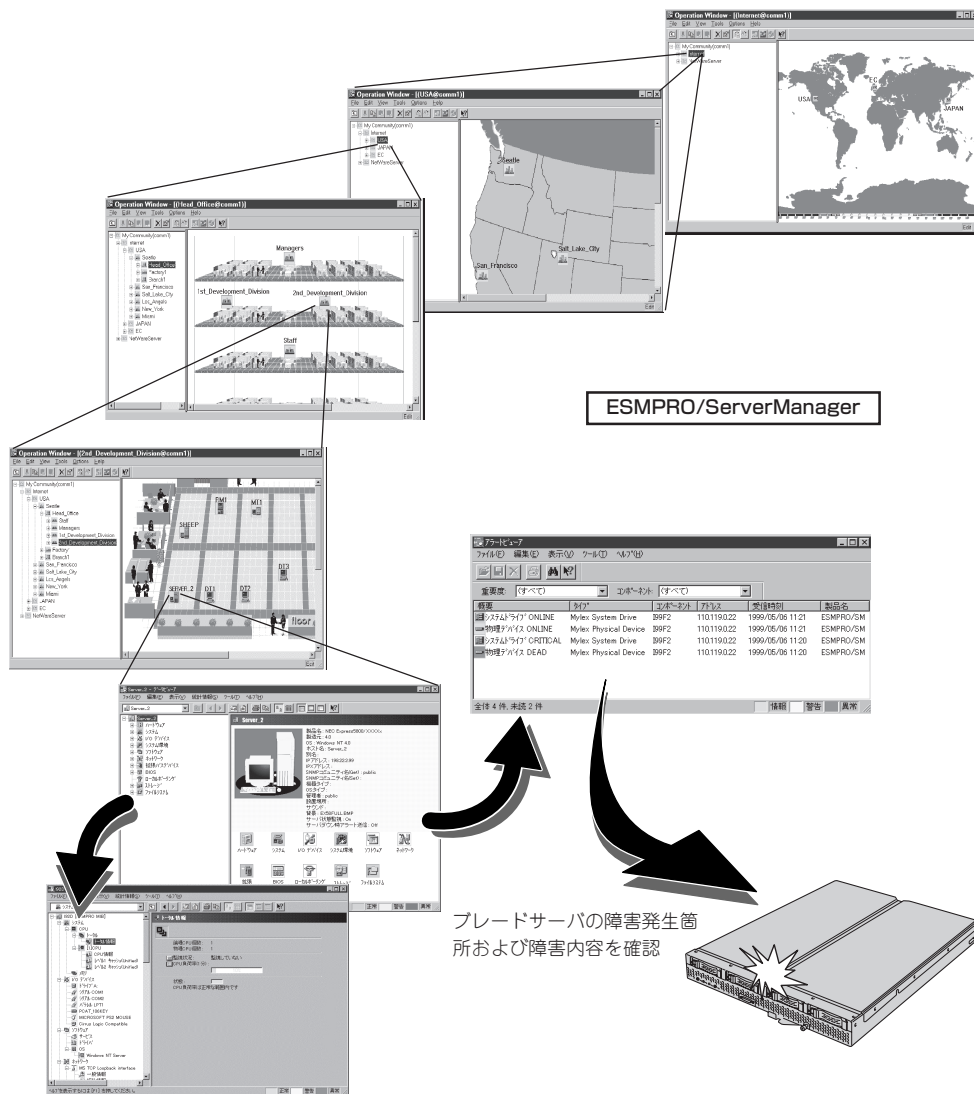
障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。障害発生箇所や内容の確認ができれば、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。



エラーメッセージ

ブレードサーバになんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

CPUブレードの電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。

次にエラーメッセージの一覧や原因、その対処方法を示します。



- POSTのエラーメッセージ一覧はCPUブレード単体のものです。
- POSTのエラーメッセージには、POSTエラーコードも含まれている場合があります。例えば、「0B60: DIMM group #1 has been disabled」が表示された場合、0B60がPOSTエラーコードを示します。



- 保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示をメモしておいてください。保守を行うときに有用な情報となります。
- 保守を行うときにIPMI情報も有用な情報となります。IPMI情報の採取方法は299ページを参照してください。

メッセージ	意 味
対処方法	
0200 Failure Fixed Disk	ハードディスクエラーが発生した。
保守サービス会社に連絡してください。	
0230 System RAM Failed	基本システムメモリ領域にてエラーを検出した。
0231 Shadow RAM Failed	システムメモリ内のシャドウ領域にてエラーを検出した。
0232 Extend RAM Failed	拡張システムメモリ領域にてエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. DIMMの取り付け状態を確認してください。 4. DIMMを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	

メッセージ		意味
対処方法		
0250	System battery is dead - Replace and run SETUP	CPUユニット上のリチウムバッテリーにてエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 3. CPUユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認してください。 4. CPUユニット上のリチウムバッテリーを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：CPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、日付・時刻やその他の設定項目を設定し直してください。		
0251	System CMOS checksum bad - Default configuration used	CPUユニット上のCMOSチェックサムエラーを検出した。
BIOS SETUPの設定がデフォルト値に設定されました。 1. BIOSセットアップを起動し、設定項目を設定し直してください。 2. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0252	Password checksum bad - Passwords cleared	パスワードのチェックサムエラーを検出した。
パスワードがクリアされました。 1. BIOSセットアップを起動し、設定項目を設定し直してください。 2. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0260	System timer error	システムタイマーエラーを検出した。
0270	Real timer error	リアルタイマーエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. CPUブレードを交換してください。 3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0271	Check date and time setting	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りを検出した。
1. BIOSセットアップを起動し、日付・時刻を設定し直してください。 2. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0615	COM B configuration changed	シリアルポートBの設定が変更された。
0616	COM B config. error - device disabled	シリアルポートBの設定にてエラーを検出した。
1. BIOSセットアップを起動し、設定し直してください。 2. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		

メッセージ		意 味
対処方法		
0B28	Unsupported Processor detected on Processor 1	CPU#1にサポートしていないCPUが搭載されていることを検出した。
0B29	Unsupported Processor detected on Processor 2	CPU#2にサポートしていないCPUが搭載されていることを検出した。
0B2A	Unsupported Processor detected on Processor 3	CPU#3にサポートしていないCPUが搭載されていることを検出した。
0B2B	Unsupported Processor detected on Processor 4	CPU#4にサポートしていないCPUが搭載されていることを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 増設、あるいは交換したCPUを交換してください。 3. エラーが発生したCPUを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0B50	Processor #1 with error taken offline	CPU#1でエラーを検出し、CPU#1を縮退した。
0B51	Processor #2 with error taken offline	CPU#2でエラーを検出し、CPU#2を縮退した。
0B52	Processor #3 with error taken offline	CPU#3でエラーを検出し、CPU#3を縮退した。
0B53	Processor #4 with error taken offline	CPU#4でエラーを検出し、CPU#4を縮退した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. エラーが発生したCPUを交換してください。 3. CPUブレードを交換してください。 4. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、CPU交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。		
0B5F	Forced to use Processor with error	搭載されたすべてのCPUでエラーを検出したため、強制的に起動した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. DIMMの取り付け状態を確認してください。 3. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認してください。 4. SASユニット上のDIMMの取り付け状態を確認してください。 5. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. メザニンカードを交換してください。 8. DIMMを交換してください。 9. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。		

メッセージ	意 味
対処方法	
0B60 DIMM group #1 has been disabled	DIMM Group#1(DIMM#01/02)でエラーを検出し、DIMM Group#1を縮退した。
0B61 DIMM group #2 has been disabled	DIMM Group#2(DIMM#03/04)でエラーを検出し、DIMM Group#2を縮退した。
0B62 DIMM group #3 has been disabled	DIMM Group#3(DIMM#05/06)でエラーを検出し、DIMM Group#3を縮退した。
0B63 DIMM group #4 has been disabled	DIMM Group#4(DIMM#07/08)でエラーを検出し、DIMM Group#4を縮退した。
0B64 DIMM group #5 has been disabled	DIMM Group#5(DIMM#09/10)でエラーを検出し、DIMM Group#5を縮退した。
0B65 DIMM group #6 has been disabled	DIMM Group#6(DIMM#11/12)でエラーを検出し、DIMM Group#6を縮退した。
0B66 DIMM group #7 has been disabled	DIMM Group#7(DIMM#13/14)でエラーを検出し、DIMM Group#7を縮退した。
0B67 DIMM group #8 has been disabled	DIMM Group#8(DIMM#15/16)でエラーを検出し、DIMM Group#8を縮退した。
<p>1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。</p> <p>2. エラーが発生したDIMM Groupの取り付け状態を確認してください。</p> <p>3. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。</p> <p>4. CPUブレードを交換してください。</p> <p>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p> <p>備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、「Advanced」 - 「Memory Configuration」 - 「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」 - 「Exit Saving Changes」を実行してください。</p>	
0B70 The error occurred during temperature sensor reading	温度センサの読み込み中にエラーを検出した。
<p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <p>*OSからの制御</p> <p>*「Ctrl + Alt + Del」キー入力</p> <p>*RESETスイッチ</p> <p>*EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御</p> <p>2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。</p> <p>*OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON</p> <p>*POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON</p> <p>*EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御</p> <p>3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。</p> <p>4. CPUブレードを交換してください。</p> <p>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>	

メッセージ	意 味
対処方法	
OB71 System Temperature out of the range	温度異常を検出した。
<ol style="list-style-type: none"> 1. ブレード収納ユニットのFANを確認してください。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認してください。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認してください。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認してください。 6. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 7. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 8. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 9. CPUブレードを交換してください。 10. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 	
OB74 The error occurred during voltage sensor reading	電圧センサの読み込み中にエラーを検出した。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 	
OB75 System Voltage out of the range	電圧異常を検出した。
<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 	

メッセージ		意 味
対処方法		
0B80	BMC Memory Test Failed.	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)の故障を検出した。
0B81	BMC Firmware Code Area CRC check failed	
0B82	BMC core hardware failure	
1. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 2. CPUブレードを交換してください。 3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0B83	BMC IBF or OBF check failed	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)アクセスエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0B8A	BMC SEL area full	IPMIシステムイベントログの書き込める容量がないことを検出した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Server」-「Event Log Configuration」-「Clear All Error Logs」を実行し、IPMIシステムイベントログを消去してください。 2. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：BIOSセットアップにてIPMIシステムイベントログを消去する前に、オフライン保守ユーティリティを起動し、IPMIシステムイベントログをバックアップすることもできます。		
0B8B	BMC progress check timeout	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)の故障を検出した。
0B8C	BMC command access failed	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)コマンドアクセスに失敗したことを検出した。
0B8D	Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができないこと(BMCビジー)を検出した。
0B8E	Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができないこと(BMCエラー)を検出した。
0B8F	Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができないこと(BMCパラメータエラー)を検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		

メッセージ		意 味
対処方法		
0B90	BMC Platform Information Area Corrupted	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)の故障を検出した。
0B91	BMC update firmware corrupted	
0B92	Internal Use Area of BMC FRU corrupted	
0B93	BMC SDR Repository empty	
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0B94	IPMB signal lines do not respond	CPUユニット内部、あるいは外部のSMBusにてエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
0B95	BMC FRU device failure	BMC(EXPRESSSCOPEエンジン)の故障を検出した。
0B96	BMC SDR Repository failure	
0B97	BMC SEL device failure	
0B98	BMC RAM test error	
0B99	BMC Fatal hardware error	
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		

メッセージ		意 味
対処方法		
0BB0	SMBIOS - SR0M data read error	CPUブレード内部のSR0M(FRU)データ読み込み中にエラーを検出した。
0BB1	SMBIOS - SR0M data checksum bad	CPUブレード内部のSR0M(FRU)データチェックサムエラーを検出した。
<ol style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 CPUブレードを交換してください。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 		
0BC0	POST detected startup failure of 1st Processor	CPU#1の起動時エラーを検出した。
0BC1	POST detected startup failure of 2nd Processor	CPU#2の起動時エラーを検出した。
0BC2	POST detected startup failure of 3rd Processor	CPU#3の起動時エラーを検出した。
0BC3	POST detected startup failure of 4th Processor	CPU#4の起動時エラーを検出した。
<ol style="list-style-type: none"> BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。 エラーが発生したCPUを交換してください。 CPUブレードを交換してください。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 <p>備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。</p>		
0BD1	1st SMBus device Error detected	CPUユニット内部、あるいは外部のSMBusにてエラーを検出した。
<ol style="list-style-type: none"> 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 CPUブレードを交換してください。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 		

メッセージ	意 味
対処方法	
0BD4 2nd SMBus device Error detected	CPUユニット内部のSMBus、あるいはSMBusデバイスにてエラーを検出した。
0BD7 3rd SMBus device Error detected	
0BDA 4th SMBus device Error detected	
0BDD 5th SMBus device Error detected	
0BE0 6th SMBus device Error detected	
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
8120 Unsupported DIMM detected in DIMM group#1	DIMM Group#1(DIMM#01/02)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8121 Unsupported DIMM detected in DIMM group#2	DIMM Group#2(DIMM#03/04)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8122 Unsupported DIMM detected in DIMM group#3	DIMM Group#3(DIMM#05/06)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8123 Unsupported DIMM detected in DIMM group#4	DIMM Group#4(DIMM#07/08)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8124 Unsupported DIMM detected in DIMM group#5	DIMM Group#5(DIMM#09/10)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8125 Unsupported DIMM detected in DIMM group#6	DIMM Group#6(DIMM#11/12)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8126 Unsupported DIMM detected in DIMM group#7	DIMM Group#7(DIMM#13/14)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
8127 Unsupported DIMM detected in DIMM group#8	DIMM Group#8(DIMM#15/16)にサポートしていないDIMMが搭載されていることを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 増設、あるいは交換したDIMM Groupを交換してください。 3. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	

メッセージ		意味
対処方法		
8130	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#1	DIMM Group#1(DIMM#01/02)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8131	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#2	DIMM Group#2(DIMM#03/04)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8132	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#3	DIMM Group#3(DIMM#05/06)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8133	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#4	DIMM Group#4(DIMM#07/08)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8134	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#5	DIMM Group#5(DIMM#09/10)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8135	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#6	DIMM Group#6(DIMM#11/12)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8136	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#7	DIMM Group#7(DIMM#13/14)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
8137	Mismatch DIMM Type detected in DIMM group#8	DIMM Group#8(DIMM#15/16)にDIMMの種類が一致していないDIMMが搭載されていることを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 増設、あるいは交換したDIMM Groupの取り付けの状態を確認してください。 3. 増設、あるいは交換したDIMM Groupを交換してください。 4. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
8140	DIMM group #1 with error is enabled	DIMM Group#1(DIMM#01/02)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8141	DIMM group #2 with error is enabled	DIMM Group#2(DIMM#03/04)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8142	DIMM group #3 with error is enabled	DIMM Group#3(DIMM#05/06)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8143	DIMM group #4 with error is enabled	DIMM Group#4(DIMM#07/08)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8144	DIMM group #5 with error is enabled	DIMM Group#5(DIMM#09/10)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8145	DIMM group #6 with error is enabled	DIMM Group#6(DIMM#11/12)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8146	DIMM group #7 with error is enabled	DIMM Group#7(DIMM#13/14)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
8147	DIMM group #8 with error is enabled	DIMM Group#8(DIMM#15/16)でエラーを検出したが、強制的に起動した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. エラーが発生したDIMM Groupの取り付け状態を確認してください。 3. エラーが発生したDIMM Groupを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。 また、交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。		

メッセージ		意 味
対処方法		
8150	NVRAM Cleared By Jumper	ジャンパ設定によりNVRAM/CMOSをクリアしたことを検出した。
保守サービス会社に連絡してください。		
8151	Password Cleared By Jumper	ジャンパ設定によりパスワードをクリアしたことを検出した。
保守サービス会社に連絡してください。		
8160	Mismatch Processor speed detected on Processor 1	CPU#1にて不正な周波数を検出した。
8161	Mismatch Processor speed detected on Processor 2	CPU#2にて不正な周波数を検出した。
8162	Mismatch Processor speed detected on Processor 3	CPU#3にて不正な周波数を検出した。
8163	Mismatch Processor speed detected on Processor 4	CPU#4にて不正な周波数を検出した。
<p>1. BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。</p> <p>2. 増設、または交換したCPUを交換してください。</p> <p>3. エラーが発生したCPUを交換してください。</p> <p>4. CPUブレードを交換してください。</p> <p>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p> <p>備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。</p>		
8170	Processor 1 not operating at intended frequency	CPU#1にて周波数の異常を検出した。
8171	Processor 2 not operating at intended frequency	CPU#2にて周波数の異常を検出した。
8172	Processor 3 not operating at intended frequency	CPU#3にて周波数の異常を検出した。
8173	Processor 4 not operating at intended frequency	CPU#4にて周波数の異常を検出した。
<p>1. BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。</p> <p>2. 増設、または交換したCPUを交換してください。</p> <p>3. エラーが発生したCPUを交換してください。</p> <p>4. CPUブレードを交換してください。</p> <p>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p> <p>備考：IPMIシステムイベントログを参照することにより、詳細なエラー内容が判ります。また、CPU交換時のCPUブレードの再立ち上げ後、BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。</p>		
817F	All Processor not operating at intended frequency	すべてのCPUにて周波数の異常を検出した。
<p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「Ctrl + Alt + Del」キー入力 * RESETスイッチ * EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>2. CPUブレードを交換してください。</p> <p>3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>		

メッセージ		意 味
対処方法		
8180	Processor #1 Error	POSTが起動される前に、CPU#1にて致命的なエラーが発生したことを示します。
8181	Processor #2 Error	POSTが起動される前に、CPU#2にて致命的なエラーが発生したことを示します。
8182	Processor #3 Error	POSTが起動される前に、CPU#3にて致命的なエラーが発生したことを示します。
8183	Processor #4 Error	POSTが起動される前に、CPU#4にて致命的なエラーが発生したことを示します。
<p>そのまま運用/稼働を続けることができますが、故障部品の交換を実施してください。</p> <p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>3. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認してください。</p> <p>4. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。</p> <p>5. エラーが発生したCPUを交換してください。</p> <p>6. CPUブレードを交換してください。</p> <p>7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>		
81A0	Cache Cautionary status detected on Processor 1	CPU#1のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。
81A1	Cache Cautionary status detected on Processor 2	CPU#2のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。
81A2	Cache Cautionary status detected on Processor 3	CPU#3のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。
81A3	Cache Cautionary status detected on Processor 4	CPU#4のキャッシュが警告レベルの状態であることを検出した。
<p>致命的な障害ではありませんので、すぐに交換する必要はありません。</p> <p>そのまま運用/稼働を続けることができます。</p> <p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>3. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認してください。</p> <p>4. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認してください。</p> <p>5. エラーが発生したCPUを交換してください。</p> <p>6. CPUブレードを交換してください。</p> <p>7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>		
8200	Online Spare memory was not ready	オンラインスペアメモリ機能を有効にできるDIMM構成ではないことを検出した。
<p>1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」の項目を確認してください。</p> <p>2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>3. DIMMの取り付け状態を確認してください。</p> <p>4. DIMMを交換してください。</p> <p>5. CPUブレードを交換してください。</p> <p>6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>		

メッセージ		意 味
対処方法		
8201	Mirroring Memory was not ready	メモリミラーリング機能を有効にできるDIMM構成ではないことを検出した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」 - 「Memory Configuration」の項目を確認してください。 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. DIMMの取り付け状態を確認してください。 4. DIMMを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		
8400	Onboard PCIE#1 Link Failure	CPUユニット内のバス接続のエラーを検出した。
8401	Onboard PCIE#2 Link Failure	
8402	Onboard PCIE#3 Link Failure	
8403	Onboard PCIE#4 Link Failure	
8404	Onboard PCIE#5 Link Failure	
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。 備考：「8403: Onboard PCIE#4 Link Failure」の場合、以下の確認も実施してください。 *CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態 *SASユニット上のDIMMの取り付け状態		
8410	Mezzanine Slot#1 PCIE Link Failure	メザニン拡張スロット 1 に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。
8411	Mezzanine Slot#2 PCIE Link Failure	メザニン拡張スロット 2 に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。
8412	Mezzanine Slot#3 PCIE Link Failure	メザニン拡張スロット 3 に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。
8413	Mezzanine Slot#4 PCIE Link Failure	メザニン拡張スロット 4 に取り付けたメザニンカードのバス接続のエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。		

メッセージ		意 味
対処方法		
8420	Onboard PCIe#1 Link Width Error	CPUユニット内のバス接続性能低下を検出した。
8421	Onboard PCIe#2 Link Width Error	
8422	Onboard PCIe#3 Link Width Error	
8423	Onboard PCIe#4 Link Width Error	
8424	Onboard PCIe#5 Link Width Error	
<p>致命的な障害ではありませんが、性能が低下する場合があります。 すぐに交換する必要はありません。そのまま運用/稼動を続けることができます。</p> <p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none">*OSからの制御*「Ctrl + Alt + Del」キー入力*RESETスイッチ*EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>2. CPUブレードを交換してください。</p> <p>3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p> <p>備考：「8423: Onboard PCIe#4 Link Width Error」の場合、以下の確認も実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none">*CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態*SASユニット上のDIMMの取り付け状態		
8430	Mezzanine Slot 1 PCIe Link Link Width Error	メザニン拡張スロット 1 に取り付けしたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。
8431	Mezzanine Slot 2 PCIe Link Link Width Error	メザニン拡張スロット 2 に取り付けしたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。
8432	Mezzanine Slot 3 PCIe Link Link Width Error	メザニン拡張スロット 3 に取り付けしたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。
8433	Mezzanine Slot 4 PCIe Link Link Width Error	メザニン拡張スロット 4 に取り付けしたメザニンカードのバス接続性能低下を検出した。
<p>致命的な障害ではありませんが、性能が低下する場合があります。 すぐに交換する必要はありません。そのまま運用/稼動を続けることができます。</p> <p>1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。</p> <ul style="list-style-type: none">*OSからの制御*「Ctrl + Alt + Del」キー入力*RESETスイッチ*EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 <p>2. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。</p> <p>3. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。</p> <p>4. CPUブレードを交換してください。</p> <p>5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>		

メッセージ	意 味
対処方法	
8450 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 1	メザニン拡張スロット 1 に取り付けしたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。
8451 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 2	メザニン拡張スロット 2 に取り付けしたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。
8452 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 3	メザニン拡張スロット 3 に取り付けしたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。
8453 Can't Read FRU on Mezzanine Slot 4	メザニン拡張スロット 4 に取り付けしたメザニンカードのFRUデータのエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *OSからの制御 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONしてください。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をON *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONしてください。 4. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認してください。 5. エラーが発生したメザニンカードを交換してください。 6. CPUブレードを交換してください。 7. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
Resource conflict	CPUブレード内、あるいはメザニンカード上のデバイスのリソースが競合したことを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 3. メザニンカードを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
Expansion Rom not initialize	CPUブレード内、あるいはメザニンカードの拡張ROMが初期化されなかったことを検出した。
1. BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「PCI Configuration」、あるいは「Advanced」-「PCI Configuration」-「Onboard NIC」にて、拡張ROMの使用頻度が低いデバイスに対して、Option ROM Scan項目をDisabledに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行してください。 2. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 *「Ctrl + Alt + Del」キー入力 *RESETスイッチ *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 3. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 4. メザニンカードを交換してください。 5. CPUブレードを交換してください。 6. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	

メッセージ	意 味
対処方法	
Invalid System Configuration Data	システム構成データ(ESCD)の不正を検出した。
System Configuration Data Read Error	システム構成データ(ESCD)リードエラーを検出した。
System Configuration Data Write Error	システム構成データ(ESCD)ライトエラーを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 * 「Ctrl + Alt + Del」 キー入力 * RESETスイッチ * EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. CPUブレードを交換してください。 3. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	
WARNING: IRQ not configured	デバイスの割り込みが正しく設定されなかったことを検出した。
1. 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施してください。 * 「Ctrl + Alt + Del」 キー入力 * RESETスイッチ * EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerからの制御 2. メザニンカードの取り付け状態を確認してください。 3. メザニンカードを交換してください。 4. CPUブレードを交換してください。 5. 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。	

その他のPOSTエラー

次のエラーはディスプレイに表示されませんが、システムイベントログに登録されます。

POST エラーコード	意 味	対処方法
02F0	アプリケーションプロセッサ初期化中にて、異常を検出した。	ディスプレイ装置の画面に表示された他のPOSTエラーメッセージの意味と対処方法を確認してください。

ランプによるエラーメッセージ

CPUブレードやドライブキャリア(ハードディスクドライブ)、ブレード収納ユニットにあるランプはさまざまな状態を点灯、点滅、消灯によるパターンや色による表示でユーザーに通知します。「故障かな?」と思ったらランプの表示を確認してください。ランプ表示とその意味については「ハードウェア編」の66ページをご覧ください。

Windows Server 2003のエラーメッセージ

Windows Server 2003の起動後に致命的なエラー(STOPエラーやシステムエラー)が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーになり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

画面のバックグラウンドの色は「ブルー」

STOP : C000021A (FATAL SYSTEM ERROR)

The Windows logon process.. System process terminated.

Unexpectedly with a status of 0x00000001
(0x00000000 0x00000000).

The system has been shutdown.

crashdump : initializing miniport driver

crashdump : dumping physical memory to disk

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

また、このエラーが起きると自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します(「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定」(Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003は30ページ参照))。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。



STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。



このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

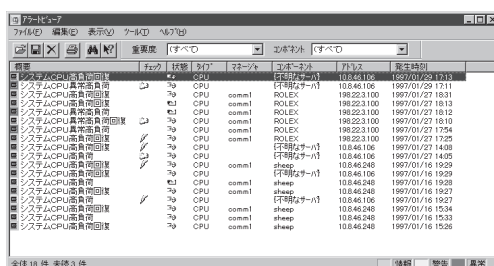
このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、GAMSeverなどの専用の管理ツールをシステムや管理PCへインストールしておくこと、何らかの障害が起きたときに管理PCやシステムに接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編またはオンラインドキュメントを参照してください。

ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。



名前	タイプ	状態	コメント	IPアドレス	更新時刻
システムCPU負荷監視	7g	CPU	[不明なエラー]	10.8.46.106	1997/01/28 17:11
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 18:31
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 18:31
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 18:13
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 18:12
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 18:10
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 17:54
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/27 17:25
システムCPU負荷監視	7g	CPU	[不明なエラー]	10.8.46.106	1997/01/27 14:08
システムCPU負荷監視	7g	CPU	[不明なエラー]	10.8.46.106	1997/01/27 14:05
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/16 19:29
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.106	1997/01/16 19:29
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.248	1997/01/16 19:29
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.248	1997/01/16 19:27
システムCPU負荷監視	7g	CPU	[不明なエラー]	10.8.46.106	1997/01/16 19:27
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.248	1997/01/16 15:34
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.248	1997/01/16 15:33
システムCPU負荷監視	7g	CPU	comml	10.8.46.248	1997/01/16 15:26

仮想LCD上のエラーメッセージ

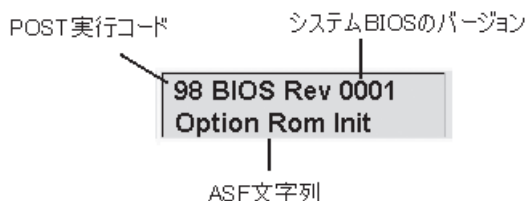
EXPRESSSCOPEエンジンやDianaScopeのリモートマネージメント機能の仮想LCD(16桁X2行)により、管理対象であるCPUブレードの状態を表示することができます。

仮想LCDには、POST実行状態および運用中やDC OFF(AC電源はON)の間に発生したエラー内容を表示します。POST中にエラーを検出した場合は、POSTが終了した後、仮想LCD上にPOSTエラーコードを表示します。234ページの表を参照して、POSTエラーコードの意味と対処方法を確認してください。



- 保守サービス会社に連絡するときには、仮想LCDの表示をメモしておいてください。保守を行うときに重要な情報となります。
- 保守を行うときにIPMI情報も有用な情報となります。IPMI情報の採取方法は299ページを参照してください。
- 対処方法は、OSからの制御による「再立ち上げ(リセット)」や「電源OFF」を優先して実施してください。

POST動作中



POSTエラーコード



0B90

ASF文字列

ASF文字列	意 味
Memory Init	メモリのテストと初期化
AP Init	マルチプロセッサの初期化
Enter Password	「Supervisor」または「User」レベルのパスワード入力待ち
Entering Setup	BIOSセットアップ起動時
USB Init	USBデバイスの検出と初期化
PCI Device Init	PCIデバイスのコンフィグレーション
Option ROM Init	PCIデバイスのオプションROM展開
Video Init	ビデオコントローラの初期化
Cache Init	プロセッサキャッシュの設定
SMBus Init	SMBusのコンフィグレーション
Keyboard Init	キーボードの検出
BMC Init	BMCエラーのチェック
Memory Failure	POST中に、DIMMを全く検出できなかった、あるいは致命的なエラーが発生したDIMMを検出し、使用できるDIMMが無かったことを示します。

POST実行コード

主なPOST 実行コード	意 味
28h	メモリのテストと初期化
2Ah	メモリのゼロクリア
2Ch	メモリのアドレスラインテスト
2Eh	メモリのデータラインテスト
0Ah	プロセッサの初期化
2Fh	プロセッサキャッシュの設定
38h	システムBIOSのShadowing
67h	アプリケーションプロセッサの初期化
69h	SMIの初期化
49h	PCIデバイスの初期化（リソース割り当て）
55h	USBの初期化

主なPOST 実行コード	意 味
4Ah	ビデオコントローラの初期化
4Ch	ビデオBIOSのShadowing
59h	POST画面表示機能の初期化
C6h	コンソールダイレクション機能の初期化
4Eh	コピーライトの表示
50h	プロセッサ情報の表示
60h	拡張メモリのテスト
62h	拡張メモリのアドレステスト
68h	キャッシュのコンフィグレーション
6Ah	キャッシュサイズの表示
87h	I/Oデバイスのコンフィグレーション
98h	PCIデバイスのオプションROM展開
93h	マルチプロセッサのコンフィグレーション
9Ch	SMIのセットアップ
BAh	SMBIOSの初期化
C3h	POSTエラーの表示
ACh	BIOSセットアップの起動
B0h	POSTエラーのチェック
BDh	Bootメニューの表示
97h	MPテーブルの作成
C0h	ブート開始処理

その他のメッセージ

DIMM 1 C Err

Prepare To Boot
AmbientTempAlm07

1行目の表示

- STATUSランプが緑色に点灯しているとき

メッセージ	意 味
	対処方法
Prepare To Boot	POSTが正常に終了した。
	エラーではありません。

● STATUSランプが赤色に点滅しているとき

メッセージ	意 味
	対処方法
ErrPause in POST	重要なPOSTエラーが発生し、キー入力待ち状態になっている。 あるいは、重要なPOSTエラーが発生したが、強制的にPOSTを終了した。
	ディスプレイ装置の画面に表示されたPOSTエラーメッセージ、あるいはIPMIシステムイベントログに登録されたPOSTエラーコードにより、234ページの表を参照して、POSTエラーコードの意味と対処方法を確認する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *OSからの制御により再立ち上げを実施する。 *「Ctrl + Alt + Del」キーを入力する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
BIOSRecovery run	システムBIOS ROMに致命的なエラーが発生した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	CPUブレードを交換する。 保守サービス会社に連絡してください。
DIMMG 1 Unc Err	DIMMソケット01/02に取り付けたDIMM(DIMM Group#1)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 2 Unc Err	DIMMソケット03/04に取り付けたDIMM(DIMM Group#2)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 3 Unc Err	DIMMソケット05/06に取り付けたDIMM(DIMM Group#3)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 4 Unc Err	DIMMソケット07/08に取り付けたDIMM(DIMM Group#4)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 5 Unc Err	DIMMソケット09/10に取り付けたDIMM(DIMM Group#5)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 6 Unc Err	DIMMソケット11/12に取り付けたDIMM(DIMM Group#6)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 7 Unc Err	DIMMソケット13/14に取り付けたDIMM(DIMM Group#7)にて訂正不可能なエラーが発生した。
DIMMG 8 Unc Err	DIMMソケット15/16に取り付けたDIMM(DIMM Group#8)にて訂正不可能なエラーが発生した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。

メッセージ	意 味
	対処方法
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>1. エラーが発生したDIMM Groupの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したDIMM Groupを交換する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
FSB 1 Unc Err	CPU#1の内部、あるいは外部バスにて訂正不可能なエラーが発生した。
FSB 2 Unc Err	CPU#2の内部、あるいは外部バスにて訂正不可能なエラーが発生した。
FSB 3 Unc Err	CPU#3の内部、あるいは外部バスにて訂正不可能なエラーが発生した。
FSB 4 Unc Err	CPU#4の内部、あるいは外部バスにて訂正不可能なエラーが発生した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
MEZ 1 Unc Err	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。
MEZ 2 Unc Err	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。
MEZ 3 Unc Err	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。
MEZ 4 Unc Err	メザニン拡張スロット4に取り付けたメザニンカードにて訂正不可能なエラーが発生した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>1. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したメザニンカードを交換する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
SB Unc Err1	SASユニットにて訂正不可能なエラーが発生した。
SB Unc Err2	
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>1. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。</p> <p>2. SASユニット上のDIMMの取り付け状態を確認する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
PCIE Unc ErrX	CPUユニット内にて訂正不可能なエラーが発生した。
Chipset UncErrX	
IO Unc ErrX	
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
FBD CH1 Unc Err	DIMMソケット01、05、09、13に取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生した。
FBD CH2 Unc Err	DIMMソケット02、06、10、14に取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>1. エラーが発生したDIMM Group#1、3、5、または7の取り付け状態を確認する。</p> <p>2. エラーが発生したDIMM Group#1、3、5、または7を交換する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
FBD CH3 Unc Err	DIMMソケット03、07、11、15に取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生した。
FBD CH4 Unc Err	DIMMソケット04、08、12、16に取り付けたDIMMにて訂正不可能なエラーが発生した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>連続的に運用/稼動が可能ですが、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エラーが発生したDIMM Group#2、4、6、または8の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したDIMM Group#2、4、6、または8を交換する。 <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

● STATUSランプがアンバー色に点滅しているとき

メッセージ	意 味
	対処方法
CPU Reconfigured	<p>プロセッサが縮退された状態で起動した。</p> <p>BIOSセットアップを起動し、「Main」-「Processor Settings」-「Processor Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Mem Reconfigured	<p>メモリが縮退された状態で起動した。</p> <p>BIOSセットアップを起動し、「Advanced」-「Memory Configuration」-「Memory Retest」をYesに変更し、「Exit」-「Exit Saving Changes」を実行することにより、解決することもできます。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
DIMM 1 C Err	DIMMソケット01に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 2 C Err	DIMMソケット02に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 3 C Err	DIMMソケット03に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 4 C Err	DIMMソケット04に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 5 C Err	DIMMソケット05に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 6 C Err	DIMMソケット06に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 7 C Err	DIMMソケット07に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 8 C Err	DIMMソケット08に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 9 C Err	DIMMソケット09に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 10 C Err	DIMMソケット10に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 11 C Err	DIMMソケット11に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 12 C Err	DIMMソケット12に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 13 C Err	DIMMソケット13に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 14 C Err	DIMMソケット14に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 15 C Err	DIMMソケット15に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
DIMM 16 C Err	DIMMソケット16に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
Sparing FailOver	DIMMにて訂正可能なエラーが多発し、メモリオンラインスペアフェールオーバーとなった。(メモリオンラインスペア構築時)
DIMMG 1 Unc Err	DIMMソケット01/02に取り付けたDIMM(DIMM Group#1)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 2 Unc Err	DIMMソケット03/04に取り付けたDIMM(DIMM Group#2)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 3 Unc Err	DIMMソケット05/06に取り付けたDIMM(DIMM Group#3)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 4 Unc Err	DIMMソケット07/08に取り付けたDIMM(DIMM Group#4)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 5 Unc Err	DIMMソケット09/10に取り付けたDIMM(DIMM Group#5)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 6 Unc Err	DIMMソケット11/12に取り付けたDIMM(DIMM Group#6)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 7 Unc Err	DIMMソケット13/14に取り付けたDIMM(DIMM Group#7)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)
DIMMG 8 Unc Err	DIMMソケット15/16に取り付けたDIMM(DIMM Group#8)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーが発生した。(メモリミラー構築時)

メッセージ	意 味
	対処方法
Mirror B1 Fail	DIMMソケット01/02、05/06、09/10、あるいは13/14に取り付けたDIMM (DIMM Group#1、3、5、あるいは7)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。(メモリミラー構築時)
Mirror B2 Fail	DIMMソケット03/04、07/08、11/12、あるいは15/16に取り付けたDIMM (DIMM Group#2、4、6、あるいは8)にて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。(メモリミラー構築時)
Mirror FailOver	DIMMにて訂正不可能なエラーが発生し、メモリミラーフェールオーバーとなった。(メモリミラー構築時)
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、 1. エラーが発生したDIMM Groupの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したDIMM Groupを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
MEZ 1 C Err	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカードにて訂正可能なエラーが多発した。
MEZ 2 C Err	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカードにて訂正可能なエラーが多発した。
MEZ 3 C Err	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカードにて訂正可能なエラーが多発した。
MEZ 4 C Err	メザニン拡張スロット4に取り付けたメザニンカードにて訂正可能なエラーが多発した。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、 1. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したメザニンカードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
SB C Err1	SASユニットにて訂正可能なエラーが多発した。
SB C Err2	
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、 1. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。 2. SASユニット上のDIMMの取り付け状態を確認する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
PCIE C ErrX	CPUユニット内にて訂正可能なエラーが多発した。
Chipset C Err X	
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
FBD CH1 C Err	DIMMソケット01、05、09、13に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
FBD CH2 C Err	DIMMソケット02、06、10、14に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、 1. エラーが発生したDIMM Group#1、3、5、または7の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したDIMM Group#1、3、5、または7を交換する。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味
	対処方法
FBD CH3 C Err	DIMMソケット03、07、11、15に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
FBD CH4 C Err	DIMMソケット04、08、12、16に取り付けたDIMMにて訂正可能なエラーが多発した。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、OSからの制御により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。
	連続的に運用/稼動が可能ですが、 1. エラーが発生したDIMM Group#2、4、6、または8の取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したDIMM Group#2、4、6、または8を交換する。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

● DIMM Group番号/ DIMM番号/Channel番号の一覧表

DIMM Group番号	DIMM番号	Channel番号
1	01	1
	02	2
2	03	3
	04	4
3	05	1
	06	2
4	07	3
	08	4
5	09	1
	10	2
6	11	3
	12	4
7	13	1
	14	2
8	15	3
	16	4

2行目の表示

● STATUSランプが赤色に点滅しているとき

メッセージ	意 味
	対処方法
Proc1 IERR	CPU#1でエラーを検出した。
Proc2 IERR	CPU#2でエラーを検出した。
Proc3 IERR	CPU#3でエラーを検出した。
Proc4 IERR	CPU#4でエラーを検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。 <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Proc1ThermalTrip	CPU#1の高温異常により強制的に電源OFFを行った。
Proc2ThermalTrip	CPU#2の高温異常により強制的に電源OFFを行った。
Proc3ThermalTrip	CPU#3の高温異常により強制的に電源OFFを行った。
Proc4ThermalTrip	CPU#4の高温異常により強制的に電源OFFを行った。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. ブレード収納ユニットのFANを確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認する。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。 <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Proc1Didn'tStart	CPU#1が起動できなかった。
Proc2Didn'tStart	CPU#2が起動できなかった。
Proc3Didn'tStart	CPU#3が起動できなかった。
Proc4Didn'tStart	CPU#4が起動できなかった。
Proc1 Config Err	CPU#1に未サポートCPU、不正な組合せのCPU、または異常なCPUが実装されている。
Proc2 Config Err	CPU#2に未サポートCPU、不正な組合せのCPU、または異常なCPUが実装されている。
Proc3 Config Err	CPU#3に未サポートCPU、不正な組合せのCPU、または異常なCPUが実装されている。
Proc4 Config Err	CPU#4に未サポートCPU、不正な組合せのCPU、または異常なCPUが実装されている。

メッセージ	意 味
	対処方法
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	1. CPUの取り付け状態を確認する。 2. CPUを交換する。
	1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
WDT Timeout	ウォッチドックタイムアウトが発生した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
WDT Power Down	ウォッチドックタイムアウトにより強制電源OFFを行った。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
SMI Timeout	システム管理割り込み処理中にタイムアウトが発生した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味
	対処方法
DUMP Request!	<p>DUMPスイッチが押された。</p> <p>OSダンプが完了するまで待つ。 完了しなかった場合、以下のいずれかの方法により、CPUブレードの再立ち上げ(リセット)を実施する。 *RESETスイッチを押す。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。</p> <p>あるいは 以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 を実施する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Proc Missing	<p>CPUが未実装である。</p> <p>1. CPUの取り付け状態を確認する。 2. CPUを交換する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
MEZ1 Power Fault	メザニン拡張スロット1に取り付けたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。
MEZ2 Power Fault	メザニン拡張スロット2に取り付けたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。
MEZ3 Power Fault	メザニン拡張スロット3に取り付けたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。
MEZ4 Power Fault	メザニン拡張スロット4に取り付けたメザニンカード上の電源回路の異常を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。</p> <p>1. エラーが発生したメザニンカードの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したメザニンカードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
AmbientTempAlm09	CPUユニット内部の高温異常を検出した。
AmbientTempAlm02	CPUユニット内部の低温異常を検出した。
	<p>1. ブレード収納ユニットのFANを確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認する。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
Proc1 Therm % 09	CPU#1の高温異常を検出した。
Proc2 Therm % 09	CPU#2の高温異常を検出した。
Proc3 Therm % 09	CPU#3の高温異常を検出した。
Proc4 Therm % 09	CPU#4の高温異常を検出した。
	1. ブレード収納ユニットのFANを確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認する。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。
	1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Battery Alm09	リチウムバッテリー電圧異常(上限)を検出した。
Battery Alm02	リチウムバッテリー電圧異常(下限)を検出した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。
	1. CPUユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認する。 2. CPUユニット上のリチウムバッテリーを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1 VCCP Alm09	CPU#1 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc1 VCCP Alm02	CPU#1 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc2 VCCP Alm09	CPU#2 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc2 VCCP Alm02	CPU#2 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc3 VCCP Alm09	CPU#3 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc3 VCCP Alm02	CPU#3 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc4 VCCP Alm09	CPU#4 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc4 VCCP Alm02	CPU#4 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
	以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。 *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。
	OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。
	1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。
	CPUブレードを交換する。
	問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味
	対処方法
FSB VTT Alm09	FSB VTT電圧異常(上限)を検出した。
FSB VTT Alm02	FSB VTT電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VTT Alm09	DIMM VTT電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VTT Alm02	DIMM VTT電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VTT Alm09	DIMM VTT電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VTT Alm02	DIMM VTT電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VCC Alm09	DIMM VCC電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VCC Alm02	DIMM VCC電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VCC Alm09	DIMM VCC電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VCC Alm02	DIMM VCC電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VDD Alm09	DIMM VDD電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VDD Alm02	DIMM VDD電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VDD Alm09	DIMM VDD電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VDD Alm02	DIMM VDD電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.5v Alm09	1.5V電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.5v Alm02	1.5V電圧異常(下限)を検出した。
BB +3.3v Alm09	3.3V電圧異常(上限)を検出した。
BB +3.3v Alm02	3.3V電圧異常(下限)を検出した。
BB +5v Alm09	5V電圧異常(上限)を検出した。
BB +5v Alm02	5V電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.2vs Alm09	1.2VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.2vs Alm02	1.2VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.25vs Alm09	1.25VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.25vs Alm02	1.25VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.5vs Alm09	1.5VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.5vs Alm02	1.5VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +3.3vs Alm09	3.3VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +3.3vs Alm02	3.3VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +5vs Alm09	5VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +5vs Alm02	5VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +12vs Alm09	12VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +12vs Alm02	12VS電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
SB +1.2v Alm09	SASユニットの1.2V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.2v Alm02	SASユニットの1.2V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.35v Alm09	SASユニットの1.35V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.35v Alm02	SASユニットの1.35V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.5v Alm09	SASユニットの1.5V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.5v Alm02	SASユニットの1.5V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.8v Alm09	SASユニットの1.8V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.8v Alm02	SASユニットの1.8V電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>1. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。</p> <p>2. SASユニット上のDIMMの取り付け状態を確認する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

● STATUSランプがアンバー色に点滅しているとき

メッセージ	意 味
	対処方法
HDD 0 Fault	スロット0に取り付けたハードディスクドライブの異常を検出した。
HDD 1 Fault	スロット1に取り付けたハードディスクドライブの異常を検出した。
HDD 2 Fault	スロット2に取り付けたハードディスクドライブの異常を検出した。
HDD 3 Fault	スロット3に取り付けたハードディスクドライブの異常を検出した。
	エラーが発生したハードディスクドライブの取り付け状態を確認する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
E-Keying Error	ブレード収納ユニット内において、CPUブレード／メザニンカードとスイッチモジュールの実装位置関係の不正により、インターフェース信号の不整合が検出され、電源ONに失敗した。 ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい位置関係で実装されているかを確認する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Location Error	ブレード収納ユニットへのCPUブレードの実装位置不正、またはFANとCPUブレードの実装位置関係の不正により、電源ONに失敗した。 1. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい位置にCPUブレードが実装されているかを確認する。 2. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいかを確認する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Cooling Error	ブレード収納ユニットへのFAN実装数量の不足、またはFAN異常により冷却能力が不足し、電源ONに失敗した。
AmbientTempAlm07	警告レベルのCPUユニット内部の高温異常を検出した。
AmbientTempAlm00	警告レベルのCPUユニット内部の低温異常を検出した。
	1. ブレード収納ユニットのFANを確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認する。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。
Proc1 Therm % 07	警告レベルのCPU#1の高温異常を検出した。
Proc2 Therm % 07	警告レベルのCPU#2の高温異常を検出した。
Proc3 Therm % 07	警告レベルのCPU#3の高温異常を検出した。
Proc4 Therm % 07	警告レベルのCPU#4の高温異常を検出した。
	1. ブレード収納ユニットのFANを確認する。 2. ブレード収納ユニットのユーザズガイドを参照し、正しい数量・位置のFANが実装されているかを確認する。 3. FANとCPUブレードとの実装位置関係が正しいことを確認する。 4. CPUブレードのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 5. 設置環境が動作保障温度を満たしていることを確認する。 1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。 CPUブレードを交換する。 問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	意 味
	対処方法
Battery Alm07	警告レベルのリチウムバッテリー電圧異常(上限)を検出した。
Battery Alm00	警告レベルのリチウムバッテリー電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>1. CPUユニット上のリチウムバッテリーの取り付け状態を確認する。 2. CPUユニット上のリチウムバッテリーを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>
Proc1 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#1 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc1 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#1 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc2 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#2 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc2 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#2 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc3 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#3 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc3 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#3 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
Proc4 VCCP Alm07	警告レベルのCPU#4 VCCP電圧異常(上限)を検出した。
Proc4 VCCP Alm00	警告レベルのCPU#4 VCCP電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>1. エラーが発生したCPUの取り付け状態を確認する。 2. エラーが発生したCPUのヒートシンクの取り付け状態を確認する。 3. エラーが発生したCPUを交換する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
FSB VTT Alm07	警告レベルのFSB VTT電圧異常(上限)を検出した。
FSB VTT Alm00	警告レベルのFSB VTT電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VTT Alm07	警告レベルのDIMM VTT電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VTT Alm00	警告レベルのDIMM VTT電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VTT Alm07	警告レベルのDIMM VTT電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VTT Alm00	警告レベルのDIMM VTT電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VCC Alm07	警告レベルのDIMM VCC電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VCC Alm00	警告レベルのDIMM VCC電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VCC Alm07	警告レベルのDIMM VCC電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VCC Alm00	警告レベルのDIMM VCC電圧異常(下限)を検出した。
B1 FBD VDD Alm07	警告レベルのDIMM VDD電圧異常(上限)を検出した。
B1 FBD VDD Alm00	警告レベルのDIMM VDD電圧異常(下限)を検出した。
B2 FBD VDD Alm07	警告レベルのDIMM VDD電圧異常(上限)を検出した。
B2 FBD VDD Alm00	警告レベルのDIMM VDD電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.5v Alm07	警告レベルの1.5V電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.5v Alm00	警告レベルの1.5V電圧異常(下限)を検出した。
BB +3.3v Alm07	警告レベルの3.3V電圧異常(上限)を検出した。
BB +3.3v Alm00	警告レベルの3.3V電圧異常(下限)を検出した。
BB +5v Alm07	警告レベルの5V電圧異常(上限)を検出した。
BB +5v Alm00	警告レベルの5V電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.2vs Alm07	警告レベルの1.2VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.2vs Alm00	警告レベルの1.2VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.25vs Alm07	警告レベルの1.25VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.25vs Alm00	警告レベルの1.25VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +1.5vs Alm07	警告レベルの1.5VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +1.5vs Alm00	警告レベルの1.5VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +3.3vs Alm07	警告レベルの3.3VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +3.3vs Alm00	警告レベルの3.3VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +5vs Alm07	警告レベルの5VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +5vs Alm00	警告レベルの5VS電圧異常(下限)を検出した。
BB +12vs Alm07	警告レベルの12VS電圧異常(上限)を検出した。
BB +12vs Alm00	警告レベルの12VS電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

メッセージ	意 味
	対処方法
SB +1.2v Alm07	警告レベルのSASユニットの1.2V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.2v Alm00	警告レベルのSASユニットの1.2V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.35v Alm07	警告レベルのSASユニットの1.35V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.35v Alm00	警告レベルのSASユニットの1.35V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.5v Alm07	警告レベルのSASユニットの1.5V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.5v Alm00	警告レベルのSASユニットの1.5V電圧異常(下限)を検出した。
SB +1.8v Alm07	警告レベルのSASユニットの1.8V電圧異常(上限)を検出した。
SB +1.8v Alm00	警告レベルのSASユニットの1.8V電圧異常(下限)を検出した。
	<p>以下のいずれかの方法により、CPUブレードの電源を一旦OFFし、電源をONする。</p> <ul style="list-style-type: none"> *OSから電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *POWERスイッチを押し、電源をOFFし、POWERスイッチを押し、電源をONする。 *EXPRESSSCOPEエンジンのWebブラウザ、またはDianaScope Managerから制御する。 <p>OSからの制御、あるいはPOWERスイッチを押すことにより、CPUブレードの電源をOFFし、CPUブレードをブレード収納ユニットから一旦取り出し、再度取り付け直し、POWERスイッチを押し、電源をONする。</p> <p>1. CPUユニットとSASユニットを接続する信号ケーブルの取り付け状態を確認する。</p> <p>2. SASユニット上のDIMMの取り付け状態を確認する。</p> <p>CPUブレードを交換する。</p> <p>問題が解決しない場合は、保守サービス会社に連絡してください。</p>

トラブルシューティング

システムが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従ってチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。

それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

ブレードサーバについて



電源がONにならない

- ☐ 電源がシステムに正しく供給されていますか？
 - 電源コードがブレード収納ユニットの電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。
 - ブレード収納ユニットに添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。
 - 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。
 - UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
 - CPUブレードが正しく取り付けられていることを確認してください。
また、CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。
<確認するメニュー: 「Server」メニューにある「AC-LINK」>
- ☐ 必要な数の電源ユニットがブレード収納ユニットに搭載されていますか？
 - 必要な電源ユニット数についてはブレード収納ユニットに添付のユーザーズガイドを参照してください。
- ☐ EMカードの初期化は完了していますか？
 - EMカードの初期化が完了していないと、電源ユニットからCPUブレードへの電源供給は行われません。
- ☐ ブレード収納ユニットのFANが、必要な数量・正しい位置に実装されていますか？
 - 必要な数量・実装位置については、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照してください。
- ☐ ブレード収納ユニット内に、CPUブレード(含むメザニンカード)とスイッチモジュールが正しい位置関係で実装されていますか？
 - 正しい位置関係については、ブレード収納ユニットのユーザーズガイドを参照してください。
- ☐ CPUブレードへの電源供給開始後、30秒以内に電源ON操作を行っていませんか？
 - CPUブレードへの電源供給開始後、BMC初期化を約30秒間行います。CPUブレードへの電源供給を確認後(CPUブレードのPOWERランプがアンバー色に点灯後)、30秒以上経過してから、POWERスイッチにて電源ONを行ってください。

- CPUブレードへの電源供給開始直後は、スロット番号の大きなCPUブレードほど、電源ONが遅くなります。
 - CPUブレードへの電源供給開始後、BMC初期化を約30秒間行います。この直後に、電源ONを行う場合、(スロット番号-1)*2秒 の待機時間が挿入される為、スロット番号の大きなCPUブレードほど、電源ONが遅くなります。
- CPUブレードへの電源ON操作から電源がONするまで、時間がかかる場合があります。
 - CPUブレードの電源ON操作を行うとCPUブレードはEMカードと通信し、電源ONの許可を得てから、電源ONを行います。EMカードが他の処理でビジーの為に、通信に時間がかかる場合、電源ONが遅くなります。



ネットワークを介したリモートパワーオンが機能しない(Wake On LANが機能しない)

- 強制電源OFFをしていませんか？
 - 強制電源OFF (CPUブレードのPOWERスイッチを4秒以上押し続けてCPUブレードを強制的に電源OFFにする機能) の後は、Wake On LANは機能しません。いったんCPUブレードを起動した後、通常のシャットダウン処理を行ってください。
- Wake on LANをサポートしているLANポートですか？
 - Wake on LANはLAN1〜3でのみ機能します。



電源がOFFにならない

- POWERスイッチの機能を無効にしていますか？
 - いったんCPUブレードを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
 - <確認するメニュー:「Security」→「Power Switch Inhibit」>



POSTが終わらない

- メモリが正しく搭載されていますか？
 - DIMMが正しく搭載されていないと動作しません。
- 大容量のメモリを搭載していますか？
 - 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。
- CPUブレードの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
 - 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- CPUブレードで使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
 - NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。



「System Configuration Data Read Error」が表示され、画面が停止する

□ POST中に以下の行為をしましたか？

- CPUブレードのPOWERボタンを押し、CPUブレードを強制電源OFFした。
- CPUブレードのRESETボタンを押し、ハードウェアリセットを行った。
- CPUブレードをブレード収納ユニットから取り外した。
- ブレード収納ユニットの電源コードを抜く。

→ 保守サービス会社に連絡してください。



CPUブレードに標準装備のLANのMACアドレスがわからない

→ CPUブレードのMP接続用コネクタ付近に貼られているラベルで確認できます。詳しくは69ページを参照してください。



内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない(または正しく動作しない)

□ ケーブルは正しく接続されていますか？

→ インタフェースケーブルが確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。

□ 電源ONの順番を間違っていないですか？

→ 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、CPUブレードの順に電源をONにします。

□ ドライバをインストールしていますか？

→ 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要な場合があります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

→ PCIデバイスを接続している場合は、CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでPCIデバイスの割り込みやその他の詳細な設定をしてください。(PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。)

<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Device」→「PCI IRQ xx」、
「Advanced」→「PCI Configuration」→「PCI Slot 1 Option ROM」>

→ シリアルポートやUSBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

<確認するメニュー: 「Advanced」→「Peripheral Configuration」、 「Server」→
「Console Redirection」>

**キーボードやマウスが正しく機能しない**

- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
 - CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更したり、マウスを無効にしたりすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
 - <確認するメニュー: 「Advanced」→「Peripheral Configuration」、「Advanced」→「NumLock」>
- ☐ ドライバをインストールしていますか？
 - 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください(これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます)。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。
- ☐ Windows Server 2003やLinuxが起動していない状態で使用していますか？
 - USBキーボードとUSBフロッピーディスクドライブを使用した以下の状態においては、USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへアクセスしていないとき)にキー入力をしてください。
 - サポートディスクを使ってインストールする時に<F6>、<S>、<Enter>キーを入力する場合
 - ROM-DOSシステムディスクを起動し、コマンドを入力する場合
- ☐ SSU経由で106キーボードを接続していませんか？
 - SSU経由で106キーボードを接続し、システムのインストールを行うと106キーボードが101キーボードとして認識され、システムに登録されることがあります。75ページを参照してアップデートを行ってください。

**ハードディスクドライブにアクセスできない**

- ☐ 本装置で利用できるハードディスクドライブですか？
 - NECが指定する機器以外は動作の保証はできません。
- ☐ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？
 - ドライブキャリアをブレード収納ユニットにしっかりと押し込んでドライブキャリアのレバーで確実に固定してください。取り付けが不完全な状態では、内部のコネクタに接続されません。

**OSを起動できない**

- ☐ BIOSで正しく設定されていますか？
 - CPUブレードのBIOSセットアップユーティリティで起動デバイスの設定を確認してください。
 - <確認するメニュー: 「Boot」>
- ☐ フロッピーディスクをセットしていませんか？
 - フロッピーディスクを取り出して再起動してください。
- ☐ OSが破損していませんか？
 - 修復プロセスを使って修復を試してください(300ページ)。



プロセッサ(CPU)を増設後、起動するたびにイベントログが表示される

- オプションのCPUの中には異なるレビジョンのものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



インストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

- ☐ 複数のハードディスクドライブを接続したり、ディスクアレイコントローラ配下に複数のシステムドライブを作成してインストールを行っていませんか？
- OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。
- ディスクアレイコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、システムドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数のシステムドライブを作成する場合は、インストール完了後、ディスクアレイのコンフィギュレーションユーティリティを使用して追加作成してください。



フロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットしているのに、「フロッピーディスクの準備ができていません」というメッセージが表示される



ライトプロテクトをしていないフロッピーディスクを外付フロッピーディスクドライブ(USB接続)にセットしているのに、「フロッピーディスクが書き込み禁止状態です」というメッセージが表示される

- ☐ 故障ではありません。
- リトライしてください(何度かリトライが必要な場合もあります)。



正しいCD-ROMを挿入したのに以下のメッセージが表示される

CD-ROMが挿入されていないか、誤ったCD-ROMが挿入されています。
正しいCD-ROMを挿入してください。

OK

- ☐ CD-ROMのデータ面が汚れていたり、傷ついていたいたりしていませんか？
- CD-ROMまたはDVD-ROMドライブからCD-ROMを取り出し、よごれや傷などがないことを確認してから、再度CD-ROMをセットし、[OK]をクリックしてください。



CD-Rディスクにアクセスできない

- ☐ CD-Rディスクの表裏を間違えてセットしていませんか？
→ トレイからCD-Rディスクを取り出し、CD-Rディスクのトップレーベルを上にして、セットし直してください。
- ☐ CD-Rディスクに汚れやキズがありませんか？
→ CD-Rディスクの表面に指紋などの汚れやキズがないことを確認してください。汚れがある場合は、CD-Rディスクの表面をクリーニングしてください。それでも読み込みができない場合は、アクセスが可能だった別のCD-Rディスクに入れ替えて、再度、読み込みができるかどうか確認してください。
- ☐ CD-Rディスクがクローズされた状態になっていますか？
→ セッションをクローズした状態にするかディスクを閉じた状態にして再度、読めるかどうか確認してください。



OSの動作が不安定

- ☐ システムのアップデートを行いましたか？
→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。36ページを参照してシステムをアップデートしてください。



障害発生時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

- 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。



ブルー画面で電源OFFができない

- ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(強制電源OFF: POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。



ネットワーク上で認識されない

- ☐ ケーブルを接続していますか？
→ ネットワークケーブルの接続状態を確認してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。
- ☐ BIOSの設定を間違えていませんか？
→ ExpressサーバのBIOSセットアップユーティリティで内蔵のLANコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
<確認するメニュー: 「Advanced」→「PCI Configuration」→「Embedded NIC (Dual Gbit)」→「LAN #1 Option ROM Scan」、「LAN #2 Option ROM Scan」>
- ☐ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？
→ 専用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

□ 転送速度の設定を間違えていませんか？

→ CPUブレードに標準で装備されている内蔵のLANコントローラは、転送速度が1Gbpsか100Mbps、10Mbpsのいずれかのネットワークで使用することができます。この転送速度の切り替え、または設定はOS上から行えますが、「自動検出」という機能は使用せず、運用しようとしている転送速度に設定してください。また、接続しているHubと転送速度やデュプレックスモードが同じであることを確認してください。

ただし、Wake On LAN機能を使用する場合は、リンク速度とデュプレックスモードの設定を[自動検出(Auto)]に設定する必要があります。



Webブラウザからリモートマネージメント機能を利用する際のログイン名/パスワードを忘れてしまった

→ ログイン名やパスワード設定を忘れてしまった場合には、以下の手順でパスワードを含む各設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

重要

本体装置にバンドルされている管理ソフトDianaScopeを使用している場合は、DianaScopeにて設定した項目も本操作を行うとクリアされます。本操作を行う前に、DianaScopeの設定情報のバックアップを行ってください。

1. CPUブレードからEXPRESSBUILDER CD-ROMを起動する。
2. 「ツール」を選択する。
3. 「システムマネージメント機能」を選択する。
4. 「BMC設定の初期化」を選択する。
5. CPUブレードの電源をOFFする。
6. CPUブレードをブレード収納ユニットから取り外す。
7. 30秒以上経過した後、CPUブレードを取り付ける。



Windows Server 2003の使用途中、以下のメッセージが表示されログインできなくなった

Windows 製品のライセンス認証
続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。 手続きが完了するまでログオンすることはできません。 今すぐ手続きを実行しますか？
コンピュータをシャットダウンするには[キャンセル]をクリックしてください。
<div>はい (Y)</div> <div>いいえ (N)</div> <div>キャンセル</div>

□ Windows製品のライセンス認証手続きを完了していますか？

→ Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完了しないまま使用していると、上記のメッセージが表示されます。[はい]を選んでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

**Telnetサービスがインストールされていない**

→ コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

1. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
3. スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。

* Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

**Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース: LoadPerf

種類: エラー

イベントID: 3009

説明: サービス C:\¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini(C:\¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンスカウンタの文字列をインストールできませんでした。エラー コードはデータ セクションの最初の DWORD です。

→ システム運用上、問題ありません。

**Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある**

ソース: DCOM

種類: エラー

イベントID: 10016

説明: コンピュータ既定 権限の設定では、CLSID{555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可をユーザーNT AUTHORITY ¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース: WinMgmt

種類: 警告

イベントID: 5603

説明: プロバイダ Rsop Planning Mode Provider は WMI 名前空間 root¥RSOP に登録されましたが、HostingModel プロパティが指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録のHostingModel プロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース: WinMgmt

種類: 警告

イベントID: 63

説明: プロバイダ HiPerfCooker_v1 は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

: プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うために WMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。



Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース: Service Control Manager

種類: エラー

イベントID: 7011

説明: Dfs サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト (30000 ミリ秒)になりました。

→ 再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。



運用中に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される

イベントID: 11

ソース: IANSMiniport

種類: 警告

分類: なし

説明: 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ~

イベントID: 13

ソース: IANSMiniport

種類: 警告

分類: なし

説明: Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベントID: 16

ソース: IANSMiniport

種類: エラー

分類: なし

説明: チーム#0、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID: 22

ソース: IANSMiniport

種類: 警告

分類: なし

説明: プライマリアダプタはプローブを検出できませんでした。
Intel(R)PRO/1000 ~原因でチームが分割されている可能性があります。

→ Teamingの設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LANドライバの動作上問題ありません。



WebBIOS™にてリビルドを実施した後、OSを起動すると下記のMegaRAID Storage Manager™(MSM)ログに登録されることがあります

Controller ID:x VD is now DEGRADED VD x.

→ システム運用上問題ありません。
ESMPRO/ServerManagerへの通報機能が設定されている場合、ポップアップメッセージが表示されることがあります。



WindowsのOSをインストールしている場合、WebBIOS™にてリビルドを実施した後、OSを起動すると下記のログがイベントビューアのアプリケーションログに登録されることがある

アプリケーションログ

ソース: MR_MONITOR
種類: エラー
イベントID: 251
説明: Controller ID:x VD is now DEGRADED VD x.

- システム運用上、問題ありません。
ESMPRO/ServerManagerへの通報機能が設定されている場合、ポップアップメッセージが表示されることがあります。



Windows Server 2003 x64 Edition / Windows Server 2003でUSB接続機器が使用できない

- ☐ システムのアップデート前に「ホットフィックス：サポート技術情報(KB)921411」の適用を行いましたか？

USBルートハブに「！」マークが表示されるか確認してください。

<確認方法>

スタートメニューから[マイコンピュータ]を右クリックし、[管理]を選択して[コンピュータの管理]を起動します。左側のウィンドウの中から、[デバイスマネージャ]を選択してください。

- USBルートハブに「！」マークが表示されている場合は、「回復手順」を参照し適用してください。

「回復手順」は、各OS の インストレーションサプリメントガイドを参照してください。



Windows Server 2003 x64 Edition / Windows Server 2003で システムのアップデートを適用すると、再起動後に“pci.sysが存在しません..”という旨のメッセージが表示されシステムを起動できない

- ☐ システムのアップデートでChipSetドライバを適用中にUSBデバイス関係のドライバが削除される場合があります。

次の手順にしたがって作業を進めてください。

1. 回復コンソールを起動する。
2. 「<システムドライブ>%system32%dllcache%pci.sys」を「<システムドライブ>%system32%drivers」下にコピーする。
3. 回復コンソールを終了し、OSを再起動する。
4. 「回復手順」を参照し「ホットフィックス：サポート技術情報(KB)921411」および「システムのアップデート」を適用する。

「回復手順」は、各OS の インストレーションサプリメントガイドを参照してください。

Windows Server 2003 R2について



Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース: IPMIDRV

種類: エラー

イベントID: 1001

説明: IPMIデバイス ドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとした。このドライバは、SMBIOSのType38 レコードを検索できることで IPMI BMCを検出しようとしたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイス ドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType 38 レコードが見つまっている場合は、イベントのDump Dateフィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。詳細な内容については、下記サイトにある「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

[NEC 8番街 : テクニカルインフォメーション]

<http://www.express.nec.co.jp/care/techinfo/techinfo.html>

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMについて



EXPRESSBUILDERから本装置を起動できない

☐ POSTの実行中に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、再起動しましたか？

→ POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER」CD-ROMをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

☐ BIOSのセットアップを間違えていませんか？

→ 本装置のBIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティでDVD-ROMドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。

<確認するメニュー: 「Boot」>

EXPRESSBUILDER実行中、何らかの障害が発生すると、以下のようなメッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

ディスクアレイに関するセットアップ中に障害を検出するとディスクアレイのセットアップをスキップします。このようなメッセージが現れた場合は、ディスクアレイコントローラまたはハードディスクドライブに障害が発生している可能性があります。保守サービス会社に保守を依頼してください。

メッセージ	原因と処理方法
本プログラムの動作対象マシンではありません。	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。対象マシンで実行してください。
NvRAMへのアクセスに失敗しました。	不揮発性メモリ(NvRAM)にアクセスできません。
ハードディスクドライブへのアクセスに失敗しました。	ハードディスクドライブが接続されていないか、ハードディスクドライブが異常です。ハードディスクドライブが正常に接続されていることを確認してください。
マザーボード上に装置固有情報が存在しません。オフライン保守ユーティリティの[システム情報の管理]を使用してバックアップした情報をリストアするか、情報を書き込んでください。この作業は、保守員以外は行わないでください。オフライン保守ユーティリティを起動しますか？	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER が装置固有情報を見つけれない場合に表示されます。保守員はオフライン保守ユーティリティを使用して情報を書き込んでください。

シームレスセットアップについて

- ❓ 指定したパーティションサイズよりも小さい容量のハードディスクドライブを使用してインストールしようとしたときに以下のメッセージが表示された

指定されたパーティションサイズはハードディスクの確保可能な容量を超えています。
セットアップは確保できる最大サイズでパーティションを作成しました。
セットアップを続行します。

OK

→ 異常ではありません。<Enter>キーを押してインストールを続けてください。

- ❓ CD-ROMからファイルをコピー中またはCD-ROMをチェック中に画面表示が乱れた

→ <R>キーを押してください。<R>キーを押しても何度も表示されるときは、シームレスセットアップをはじめてからやり直してください。それでも同じ結果が出たときは保守サービス会社に連絡して、DVD-ROMドライブの点検を依頼してください。

- ❓ 自動インストールが中断し、セットアップ情報を入力するように求められた

→ 設定したセットアップ情報に間違いがあります。メッセージに従って正しい値を入力してください。インストールをキャンセルする必要はありません。Windowsではセットアップの最後のレポートで再度、<Enter>キーの入力を要求されることがあります。

- ❓ 「コンピュータの役割」画面で[終了]が表示される

→ ここで[終了]をクリックすると、その後の設定はシームレスセットアップの既定値を自動的に選択して、インストールを行います。

<既定値>

ネットワークプロトコルの設定

プロトコル: TCP/IP [DHCP指定]

サービス: Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有
の選択

クライアント: Microsoft ネットワーク用クライアント

コンポーネント: SNMP

アプリケーション: ESM/PRO/ServerAgent

エクスプレス通報サービス

MegaRAID Storage Manager™(I/Oボード上のコント
ローラ使用時)



「コンピュータの役割」画面で[終了]が表示されない

- 作成済みのセットアップ情報ファイルをロードした場合は表示されません。
- [終了]は、最初に[コンピュータの役割]画面に移ったときのみ表示されます。一度でも[コンピュータの役割]から先の画面に進むと[戻る]を使用して、[コンピュータの役割]画面に戻っても、[終了]は表示されません。



「パーティションの使用方法」で「既存パーティションを使用する」を選択したのにディスクの全領域がOS領域としてインストールされている

- ☐ 流用するパーティション以外(保守領域を除く)にパーティションが存在しましたか？
 - 流用するパーティション以外にパーティションが存在しなかったとき全領域を確保してWindowsをインストールします。



ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

- ☐ ホスト名に2バイト文字を使用していませんか？
 - Windows Server 2003の場合、ホスト名に2バイト文字を使用するとドメインの参加に失敗します。失敗した場合は、コントロールパネル→システムからドメインの参加設定を行ってください。
 - LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなくワークグループ設定でインストールされます。OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。



パーティションサイズに大きな値を指定したのに、実際にWindowsを起動してみると、4095MBでシステムパーティションが作成されている

- ☐ 「パーティションサイズ」で実領域以上の値を設定していませんか？
 - 全領域(保守領域を除く)を1パーティションで作成したい場合は「全領域」を設定するようにしてください。



ディスプレイの解像度として指定したものと違う解像度でWindowsが起動した

- ディスプレイの解像度は、指定された設定が使用できなかった場合、それに近い設定かまたはドライバのデフォルト値が使用されます。



間違ったプロダクトキーを入力してしまった

- 間違ったプロダクトID/CDキーを入力しても、自動インストールは開始します。しかし、自動インストール中にストップ、再入力を促されます。また、この場合、自動インストール中のGUIセットアップ終了の再起動時に入力要求が発生します。これら2回の入力を行えば、Windowsのセットアップには問題はありません。



ネットワークアダプタの詳細設定ができない

- シームレスセットアップでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windowsの起動後、コントロールパネルから設定してください。



シームレスセットアップで設定しなかったネットワークアダプタの設定が行われてWindowsが起動した

- Windowsは認識したネットワークアダプタは既定値に設定してインストールします。設定の変更は、Windowsの起動後、コントロールパネルから行えます。また、シームレスセットアップで設定したが、実際に接続されていなかった場合、アダプタのセットアップは行われませんが、プロトコルのインストールだけは行われます。

？ **複数枚ネットワークアダプタを装着し、アダプタごとに違うプロトコルを設定したのに、どのアダプタもすべてのプロトコルが設定されている**

→ 仕様です。各アダプタにはインストールされたプロトコルすべてが使用できるように設定されます。シームレスセットアップで設定できないものは、すべて既定値になります。

？ **複数枚ネットワークアダプタを設定したとき、TCP/IPプロトコルの詳細設定がすべてDHCPを使用するになっている**

→ 複数枚のネットワークアダプタを設定したときに、プロトコルの詳細設定がすべて既定値になることがあります。コントロールパネルから詳細設定を行ってください。

？ **ネットワークアダプタを複数枚接続していないのにプロトコルの詳細設定がすべてデフォルト設定になっている (例: TCP/IPの場合IPアドレス設定したのにDHCP設定になっているなど)**

☐ 複数のプロトコルを設定していませんか？

→ この場合、複数のネットワークアダプタを接続したときと同じ状態になるため、プロトコルの詳細設定がデフォルト設定になってしまいます。OS起動後にコントロールパネルから詳細設定を行ってください。

？ **2GB以上のパーティションにNTFSでインストールしたのにクラスタサイズが512バイトでインストールされる**

→ シームレスセットアップの仕様です。512バイト以外のクラスタサイズでインストールしたい場合は、ローカルインストールをしてください。

？ **シームレスセットアップ中、「OS差分モジュールのコピー」もしくは「OS CD-ROMの挿入」時に以下のメッセージが表示され、セットアップが中断する**

Bad Command or filename
Insufficient disk space

→ 以下の手順に従ってSCSIコントローラのBIOSの設定を確認してください。本書に記載されていないSCSIコントローラの手順については、SCSIコントローラの説明書を参照し「Int 13 Extensions」の設定を確認してください。

<AIC-7892の場合>

1. POST中にAIC-7892が表示されたら<Ctrl>+<A>キーを押す。
2. 「Configure/View Host Adapter Settings」を選択する。
3. 「Advanced Configuration Options」で<Enter>キーを押す。
4. 「BIOS Support for Int13 Extensions」を「Enabled」に変更する。
5. BIOSのメニューを終了し、システムを再起動する。
6. シームレスセットアップを実行する。

？ **シームレスセットアップ中、「パーティションの作成」時にセットアップが中断する**

☐ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。



シームレスセットアップを使用できない

- Microsoft Windows Server 2003 x64 Editions では、シームレスセットアップを使用できません。再セットアップする場合は、「Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions インストールेशनサブリメントガイド」を参照し、「ローカルインストール」を使用してください。

マスターコントロールメニューについて



オンラインドキュメントが読めない

- ☐ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？
 - オンラインドキュメントの一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。



マスターコントロールメニューが表示されない

- ☐ ご使用のシステムは、Windows NT 4.0以降またはWindows 95以降ですか？
 - 本プログラムは、Windows 95以降またはWindows NT 4.0以降のオペレーティングシステム上で動作させてください。
- ☐ <Shift>キーを押していませんか？
 - <Shift>キーを押しながらCD-ROMをセットすると、Autorun機能がキャンセルされます。
- ☐ システムの状態は問題ありませんか？
 - レジストリ設定やCD-ROMをセットするタイミングによってはメニューが起動しない場合があります。そのような場合は、CD-ROMの¥MC¥1ST.EXE (64bit Windowsの場合は1ST_X64.EXE)をエクスプローラなどから実行してください。



メニュー項目がグレイ表示される

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
 - 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境で実行するようにしてください。



「This program requires Windows Japanease version」というメッセージが表示される

- ☐ ご使用の環境は正しいですか？
 - 本製品は日本語版Windows専用です。オペレーティングシステムが英語バージョンの場合プログラムは起動できませんので、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

ディスクアレイについて

ディスクアレイを構成している本装置がうまく動作しない時や、ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法に従った操作をしてください。

OSをインストールできない

- ☐ ディスクアレイコントローラのコンフィグレーションを行いましたか？
→ MegaRAID Configuration Utilityまたは、WebBIOSを使って正しくコンフィグレーションしてください。

OSを起動できない

- ☐ ディスクアレイコントローラのBIOS設定が変更されていませんか？
→ MegaRAID Configuration Utilityを使って正しく設定してください。
- ☐ POSTで、ディスクアレイコントローラを認識していますか？
→ ディスクアレイコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をONにしてください。

→ 正しく接続していても認識されない場合は、ディスクアレイコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。
- ☐ ブート先の優先順位が低くないですか？
→ 本体装置のBIOSセットアップを起動し、Bootオーダ選択画面からブート優先順位を確認してください。
- ☐ HDD が奥まで、しっかり実装されていますか？
→ 正しく実装してください。

HDD が故障した

- 契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

リビルドができない

- ☐ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？
→ 故障したハードディスクドライブと同じ容量のディスクを使用してください。
- ☐ RAID構成が、RAID0ではありませんか？
→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。FAILになったハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。



オートリビルドができない

- ☐ ハードディスクドライブを交換(ホットスワップ)するときに十分な時間を空けましたか？
 - オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に60秒以上の時間を空けてください。
- ☐ 設定を間違えていませんか？
 - MegaRAID Configuration Utilityを使って、オートリビルドの設定を確認してください。



ハードディスクドライブがFailになった

- 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。



整合性チェックが実行できない

- ☐ バーチャルディスクが「Degraded」になっていませんか？
 - 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。
- ☐ バーチャルディスクのRAIDレベルがRAID0ではありませんか？
 - RAID0は冗長性がないため整合性チェックができません。

オンボードRAID(Mega RAID ROMB)用バッテリーについて

1. 定期的にバッテリーの放充電を行うため(設定は30日毎)、次のメッセージが警告としてイベントログ(アプリケーション)に出力される場合がありますが運用上の問題はありません。

- ・ MegaRAID Storage Manager™(MSM)ログ
Controller ID:x Battery is discharging.

- ・ アプリケーションログ

ソース MR_MONITOR

種類 警告

イベントID 148

説明 Controller ID:x Battery is discharging.

- ・ MegaRAID Storage Manager™(MSM)ログ
Controller ID:x BBU disables; changing WB logical drives to WT.

- ・ アプリケーションログ(Application event log)

ソース MR_MONITOR

種類 警告

イベントID 195

説明 Controller ID:x BBU disables; changing WB logical drives to WT.

2. バッテリーを交換した後および装置導入時は、充電ならびに、放充電が行われます。次のメッセージが警告としてイベントログ(アプリケーション)に出力される場合がありますが運用上の問題はありません。

- ・ MegaRAID Storage Manager™(MSM)ログ
Controller ID:x Battery requires reconditioning; please initiate a LEARN cycle.

- ・ アプリケーションログ(Application event log)

ソース MR_MONITOR

種類 警告

イベントID 253

説明 Controller ID:x Battery requires reconditioning - please initiate a LEARN cycle.

3. 定期的にバッテリーの放充電を行うため(設定は30日毎)、このサイクルを実施している期間、POST中に次のメッセージが出力される場合がありますが運用上の問題はありません。

Your battery is bad or missing, and you have VD's configured for write-back mode. Because the battery is not usable, these VD's will actually run in write-through mode until the battery is replaced.

The following VD's are affected : xx,xx,xx,xx,xx,xx

4. バッテリーを交換した後は、充電ならびに、放充電が行われます。このサイクルを実施している期間、POST中に次のメッセージが出力される場合がありますが運用上の問題はありません。

Your battery is bad or missing, and you have VD's configured for write-back mode. Because the battery is not usable, these VD's will actually run in write-through mode until the battery is replaced.

The following VD's are affected : xx,xx,xx,xx,xx,xx

5. POST中に以下のメッセージが表示される。

The battery hardware is missing or malfunctioning, or the battery is unplugged. If you continue to boot the system, the battery-backed cache will not function. Please contact technical support for assistance.

Press "D" to disable this warning (if your controller does not have a battery).

オンボードRAID(MegaRAID ROMB)のバッテリーの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

6. オンボードRAID(MegaRAID ROMB)のバッテリーが認識されない、またはPOSTにて以下のメッセージが表示される。

Your battery is bad or missing, and you have VD's configured for write-back mode. Because the battery is not usable, these VD's will actually run in write-through mode until the battery is replaced.

The following VD's are affected : xx

Press any key to continue.

- ☐ バッテリーの充電率が低い可能性があります。

→ バッテリーを充電するために数時間システムを通電した後、再度POSTメッセージを確認してください。

WebBIOSを使用してバッテリーステータス画面で確認することができます。

上記の処置を実施しても認識されない場合は、バッテリーの故障または寿命の可能性もあります。バッテリーの製品寿命は約2年です。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

ExpressPicnicについて

セットアップ情報の設定でExpressPicnicウィンドウのビットマップが正しく表示されない(Trekkingコマンド使用時)

→ ディスプレイの設定の色数が256色未満の場合はビットマップが正しく表示されていませんが、セットアップ情報は正しく表示できます。

Point To Point トンネリング プロトコルの設定ができない

→ 現在サポートしていません。インストール後、コントロールパネルから設定を行ってください。この場合、再起動は必要ありません。

ネットワークアダプタの詳細設定ができない

→ ExpressPicnicでは、ネットワークアダプタの詳細設定は行えません。Windowsの起動後、コントロールパネルから設定してください。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgentについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgentインストールガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerManagerについて

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」CD-ROM内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストールガイド」でトラブルの回避方法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

その他のバンドルソフトウェアについて

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMにバンドルされている各種ソフトウェアについては、同CD-ROM内のオンラインドキュメントで説明しています。

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。



- 以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。
- 障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。

イベントログの採取

システムに起きたさまざまな事象(イベント)のログを採取します。



STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。



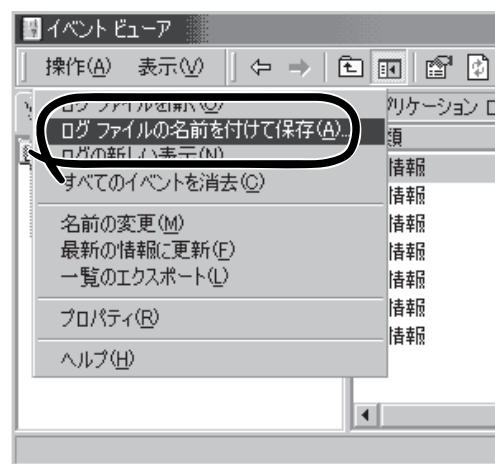
ヒント

オプションのCPUの中には異なるレビジョン(ステッピング)のものが含まれている場合があります。異なるレビジョンのCPUを混在して取り付けた場合、Windowsではイベントビューアのシステムログに以下のようなログが表示されますが、動作には問題ありません。



1. コントロールパネルから[管理ツール]→[イベントビューア]をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

[アプリケーション ログ]には起動していたアプリケーションに関連するイベントが記録されています。[セキュリティ ログ]にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。[システム ログ]にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。



3. [操作]メニューの[ログファイルの名前を付けて保存]コマンドをクリックする。
4. [ファイル名]ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. [ファイルの種類]リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、[OK]をクリックする。

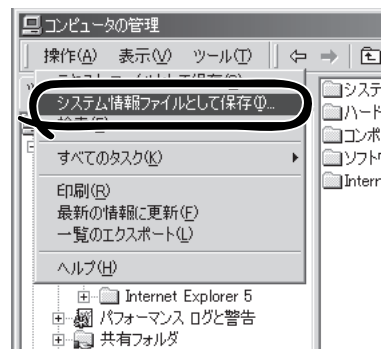
詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取

ブレードサーバのハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

重要 STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [管理ツール]アイコンをダブルクリックし、[コンピュータの管理]アイコンをダブルクリックする。
[コンピュータの管理]ダイアログボックスが表示されます。
3. [システムツール]—[システム情報]をクリックする。
4. [操作]メニューの[システム情報ファイルとして保存]コマンドをクリックする。
5. [ファイル名]ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
6. [保存]をクリックする。



ワトソン博士の診断情報の採取

ワトソン博士を使って、アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「導入編」の「ワトソン博士の設定」を参照してください。

メモリダンプの採取

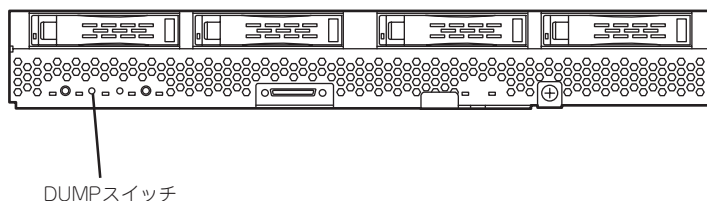
障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ(デバッグ情報)の設定(Windows Server 2003 x64 Editions、Windows Server 2003は30ページ)」を参照してください。



- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

障害が発生し、メモリダンプを採取したいときにDUMPスイッチを押してください。スイッチを押すときには金属製のピン(太めのゼムクリップを引き伸ばして代用可)をスイッチ穴に差し込んでスイッチを押します。

スイッチを押すと、メモリダンプは設定されている保存先に保存されます(CPUがストールした場合などではメモリダンプを採取できない場合があります)。



IPMI情報のバックアップ

IPMI情報を採取します。情報を採取するためには、ESMPRO/ServerAgentがインストールされていなければなりません。

1. スタートメニューから[プログラム]－[ESMPRO ServerAgent]－[ESRASユーティリティ]を選ぶ。

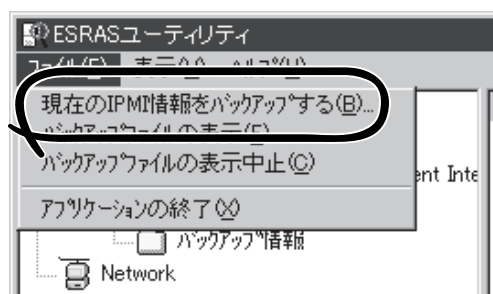
[ESRASユーティリティ]ウィンドウが表示されます。

2. ツリービューより[最新情報]を選択して、ローカルコンピュータの情報を取得する。

データが表示されれば取得ができたことになります。

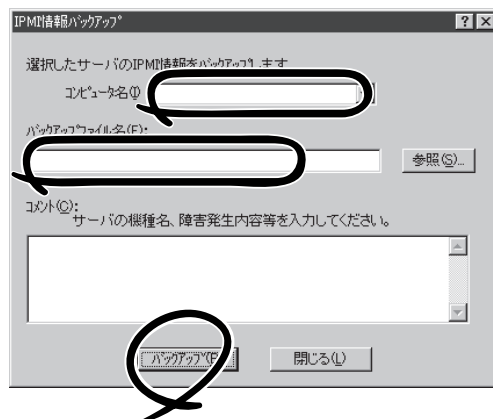


3. [ファイル]メニューから[現在のIPMI情報をバックアップする]をクリックする。



4. バックアップ対象のコンピュータ名を確認する。

5. 退避するバックアップファイル名と保存する場所を指定して[バックアップ]をクリックする。



システムの修復

OSを動作させるために必要なファイルが破損した場合は、「修復プロセス」を使ってシステムを修復してください。



- CPUブレードにキーボード・ディスプレイ装置・DVD-ROMドライブ・フロッピーディスクドライブが接続されていない場合は、必ず正しい構成で接続してください。
- システムの修復後、36ページの「システムのアップデート」を参照して必ずシステムをアップデートしてください。また、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは導入編の「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。
- ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。
- USBフロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき(フロッピーディスクへのアクセスがないとき)にキー入力をしてください。

修復手順(Windows Server 2003 x64 Editions)

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

修復手順(Windows Server 2003)

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

オフライン保守ユーティリティ

オフライン保守ユーティリティは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本製品に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。



- オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動すると、メニューにヘルプ(機能や操作方法を示す説明)がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。
- オフライン保守ユーティリティが起動すると、クライアントから本製品へアクセスできなくなります。

オフライン保守ユーティリティの起動方法

オフライン保守ユーティリティは次の方法で起動することができます。

- **EXPRESSBUILDERからの起動**

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」から「ツール」→「オフライン保守ユーティリティ」の順に選択すると、CD-ROMディスクよりオフライン保守ユーティリティが起動します。

- **フロッピーディスクからの起動**

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツール」→「サポートディスクの作成」で作成した「オフライン保守ユーティリティ 起動FD」をセットして起動すると、オフライン保守ユーティリティが起動します。

オフライン保守ユーティリティの機能

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

- **IPMI情報の表示**

IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やバックアップをします。

本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

- **BIOSセットアップ情報の表示**

BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

- **システム情報の表示**

プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- **システム情報の管理**

お客様の装置固有の情報や設定のバックアップ(退避)をします。バックアップをしておかないと、ボードの修理や交換の際に装置固有の情報や設定を復旧できなくなります。



システム情報のバックアップの方法については、38ページで説明しています。なお、リストア(復旧)は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

- **筐体識別**

本装置のランプ、ブザーなどで、本装置を識別できるようにします。ラックに複数台の装置が設置された局面で装置を識別するときなどに便利です。

システムマネージメント

システムマネージメント機能はベースボードマネージメントコントローラ (Baseboard Management Controller: BMC) による通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

起動方法

システムマネージメントは次の方法で起動することができます。

「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」から「ツール」→「システムマネージメント機能」の順に選択すると、CD-ROMよりシステムマネージメント機能が起動します。

フロッピーディスクからの起動

「EXPRESSBUILDER トップメニュー」の「ツール」→「サポートディスクの作成」で作成した「システムマネージメントFD」をセットして起動すると、システムマネージメント機能が起動します。

機能

システムマネージメントを起動すると、以下の機能を実行できます。

- ファームウェア管理情報の表示

BMC(Baseboard Management Controller)に関する情報を表示します。



- システムマネージメントの設定


BMCによる通報機能や管理用PCからのリモート制御機能を使用するための設定、通報テストを行います。

各設定については、起動後のヘルプを参照してください。

移動と保管

CPUブレードやハードディスクドライブを移動・保管するときは次の手順に従ってください。

 注意	
	<p>装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iiiページ以降の説明をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none">● 指定以外の場所に設置しない● 電源ONのままインタフェースケーブルの取り付けや取り外しをしない

- | | |
|--|--|
| 
重要 | <ul style="list-style-type: none">● ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。● ハードディスクドライブは衝撃を与えないように注意してください。 |
|--|--|

保管の際は、温度変化が少なく、湿気の少ない清潔な場所を選んでください。また、振動や衝撃を受けない場所でなくてはなりません。

<CPUブレードやハードディスクドライブを移動・保管する場合>

ハードウェア編で記載されている取り付け/取り外し手順に従ってデバイスをブレード収納ユニットから取り外し、購入時に入っていた袋や梱包箱に入れて、移動・保管してください。

ブレード収納ユニット(SIGMABLDE-H)を移動・保管するときは、ブレード収納ユニット(SIGMABLDE-H)に添付の説明書を参照してください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

保証について

本製品には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡しします。記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社に連絡してください。



- NEC製以外(サードパーティ)の製品またはNECが認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。
- CPUブレードのトレイの内側に貼り付けられているラベルにSERIAL No. (製造番号)が記載されたラベルが貼られています。ブレード収納ユニットでは、前面側の電源ユニット(スロット4)付近に貼り付けられているラベルにSERIAL No.(製造番号)が記載されています。販売店にお問い合わせの際にこの内容をお伝えください。また銘板の製造番号と保証書の保証番号が一致していませんと、装置が保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。

運用・保守編

修理に出される前に

「故障かな?」と思ったら、以下の手順を行ってください。

- ① 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- ② 「障害時の対処(233ページ)」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
- ③ システムを運用するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
- ④ 市販のウィルス検出プログラムなどで本装置をチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りのNECまたは保守サービス会社にご連絡ください。その際に本装置のランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。
なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。



本製品は日本国内仕様のため、NECの海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- ☐ 保証書
- ☐ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- ☐ 障害情報*
- ☐ 本体・周辺機器の記録

* 296ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスはNECの保守サービス会社、およびNECが認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。

なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

NECでは、お客様に合わせて以下の契約保守サービスを用意しております。



- サービスを受ける為には事前の契約が必要です。
- サービス料金は契約する日数／時間帯により異なります。

情報サービスについて

Express5800シリーズ製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター **TEL. 03-3455-5800(代表)**

受付時間／9:00～12:00、13:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。

※ 電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター **TEL. 0120-22-3042**

受付時間／9:00～17:00 月曜日～金曜日(祝祭日を除く)

インターネットでも情報を提供しています。

<http://nec8.com/>

『8番街』：製品情報、Q&Aなど最新Express情報満載！

<http://club.express.nec.co.jp/>

『Club Express』：『Club Express会員』への登録をご案内しています。Express5800シリーズをご利用になる上で役立つ情報サービスの詳細をご紹介します。

<http://www.fielding.co.jp/>

NECフィールドینگ(株)ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介します。